

IPtalkマニュアル #005

「入力 1」ページ

2014 年 12 月 31 日版

これは、IPtalk9t マニュアルの暫定公開版です。

下の NCK 会員向け前書きに書いたように、動作確認の手間を NCK の会員にお願いして、IPtalk9t のマニュアルを作成しようと思ったのですが、栗田が書くこと自体に時間を取ることができず「IPtalk9t の全機能」どころか「よく使う機能」の説明でさえ「いつになるか分からない」という状況が続いています。そこで、「機能限定でも役に立つ」という暖かい意見も頂戴していることもあり、書いたマニュアルは、できるだけ暫定でも一般公開したいと考えます。何時の事になるか分かりませんが、最終的には、1 つのマニュアルにまとめたいと考えています。

【使用の制限】

- ・このマニュアルは、個人的な使用に限定します。
- ・このマニュアルの PDF データや印刷物を個人的にサークル、学校、知り合いなどにコピーして渡すの自由です。ただし、再配布は、必ずオリジナルのまま行い、一部のみの配布、修正などは行わないでください。
- ・ホームページなどに掲載して不特定多数に配布することは禁止します。
- ・このマニュアルを講習会で使用する、本やテキストなどに引用するなど、個人的使用を越えた使用を希望する場合は連絡してください。

【お願い】

今後のために「IPtalk のマニュアルをどのような方が使っているか？」を知りたいので、このマニュアルを手に入れた方は「①名前②所属、又は、県名③入手した方法」をメールしていただけるとありがたいです。

【連絡先】 office@nck.or.jp

2014 年 12 月 31 日 栗田

以下は、2012 年 12 月「NCK 会員向けマニュアル」の前書き

このマニュアルは、NCK 会員の会員専用です。NCK 会員が、サークル、学校、知り合いなどにコピーして渡すの自由です。ただし、もらった非会員が、さらにコピーすることはできません。ホームページなどに掲載するこ

ともご遠慮ください。

みなさんもご存じのように、マニュアルを書くのは、膨大な労力がかかります。パソコン環境が、XP か Vista か Windows7 であるかとか、ファイアウォールとか、どんなソフトがインストールされているかなど、IPtalk の動作に影響があるいろいろなことを考慮する必要があります。また、IPtalk の各機能は、表示設定によって動作が異なる場合があるため、その人が「いつも使っている表示設定」での操作が分かるように記述する必要があります。現在、500 項目くらいの表示設定があるため、この組み合わせは気が遠くなります。

そもそも、IPtalk は、10 年以上も、その時々で機能追加を繰り返して来たので、プログラム自体が、まるで建て増しを繰り返した老舗温泉旅館の廊下のような迷路になっていて、マニュアルを正確に書くために、プログラムを当たったり、例外的な動作を調べたりするだけで膨大な労力がかかってしまいます。また、マニュアルというからには、IPtalk の機能を一通りは網羅したいと思うのですが、IPtalk は現在、ウィンドウを 37 個持っていて、実際は、1つのプログラムというよりも、37 個のプログラムの集合体と言った方が良いかもしれない状況も問題です。プログラム行数は、IPtalk9t61 の時に 139,383 行という気の遠くなる行数でした。

それに、せっかく書くのであれば、初心者の人だけではなく、パソコンに詳しい、長年 IPtalk を利用して来た人にも「へえ～、そうだったんだ～」と言って欲しいという気持ちもあって、ますますハードルを高くしてしまい、この数年、マニュアルを作成する必要性は感じていながら、IPtalk のマニュアルは、IPtalk9i,9s シリーズを最後に手が付きませんでした。

しかし、IPtalk9t シリーズができて、5 年が経とうとしています。そこで、発想を変えて、一つの機能限定のマニュアルを栗田の記憶と簡単な動作確認で作成し、NCK 会員に限定配布し、例外的な動作や気づかなかった項目は、会員のみなさんから教えてもらうことで、完成度を上げる方法でマニュアルを作りたいと考えました。将来的には、これらのマニュアルを集めて、NCK から一般公開できると良いと思っています。みなさんのご協力をお願い致します。

さて、今回は、「入力 1」ページです。

2012 年 12 月 30 日 栗田

【履歴】

2012 年 12 月 30 日 NCK 会員向け初版

2014 年 12 月 31 日 暫定一般公開

表示・入力	選択	補W1	補W2	パートナ	表示1	表示2	表示3	表示4	訂正	入力1	入力2	保存	説明
-------	----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	----	------------	-----	----	----

入力に関する設定を行います。

Enterで色指定と発言者名を入れる
色指定 発言者名

行が継続する時は入れない
 ESCで消した時に入れる

入力途中クリア時メッセージ
 表示時間 500 ミリ秒

入力文の送り方
 入力部でEnterとF12を押した時に
 カーソルより前の文を送る。

漢字変換色
 変換中の文字の色を指定します。
文字色 背景色
表示指定ページの「表示設定の保存」で保存されます。

ショートカットキーでウィンドを移動
 開いているウィンドを開いて移動。
 ウィンドを開く
 ショートカットキーを 無効にする

F8キー
 入力文の前後をカッコでくります。
 くくる。
F8
Shift+F8

入力技能判定
 入力部でのキー入力技能を判定します
サブ入力ウィンドなどは対象外です。
 入力技能判定パレット 1人入力
 結果出力に解説を付ける

8人モニターで連絡する
 連絡や入力補助を8人モニターに表示
する時、誤って表示に流すことを防止する
 行頭が下の文の時は表示に流さない。

入力部の↑↓キーの動作
 最上行の↑で行頭、最下行の↓で行末
 ↑で行頭、↓で行末に移動

【概要】

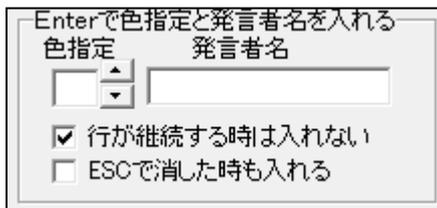
入力に関する機能の指定は、「入力1」「入力2」そして「訂正」ページにあります。

いろいろな機能がありますが、所詮は補助的な効果しかなく、どんなにこれらの機能に習熟したとしても、入力者の技能を越えた入力ができる訳ではありません。初心者の方には、このページの機能の練習するよりは、まずはミスタッチなく入力することを目標に練習をすることをお勧めします。

とは言うものの、実際の入力は、聞き溜めしながら、話と入力の追いかけて、そのような時に「ちょっと入力の手間が省略できる」機能は、非常に役に立ちます。入力に慣れて来たら、このページの機能をうまく使ってより良い文字通訳を目指してください。

余談ですが、IPtalkの入力補助の基本的な考え方は、入力部の上にモニター部を置いてあることです。つまり、それは、連携入力では、パートナーの入力状況をモニターすることを重視しているからです。他には、必要なウィンドのみを表示でき、それらのウィンドを自由に配置できるということも、「入力のし易さ」に影響すると考えています。

【Enter で色指定と発言者名を入れる】



【概要】

この機能は、大勢の発言者がいる会議の文字通訳のために作りました。会議では、発言者が同時に発言することもあるため、発言者 1 人に入力者 1 人が担当する方法を想定しています。(つまり、他の人の発言が終わるのを待たずに発言する人がいる、所謂、紛糾した会議での文字通訳を想定しています。他にも、漫才など、同時に複数の人が発言する場合があります。)

「発言者名」の枠に、「栗田／」などと入力しておく、入力部で **Enter** して表示に流した後、入力部に「栗田／」が自動的に入ります。つまり、そのまま入力すれば、「栗田／今の発言に賛成です！」などと、話者名を先頭に入れた入力が簡単にできます。

実際にこの機能を使って会議の入力をしてみると分かるのですが、2人関係入力はできません。発言は、基本的に 1 人の入力者が担当し、1 発言を 1 表示で流すことになります。これは、入力速度と即時性という点で劣ります。このため、会議でこの方法を使うのは、関係入力が必要無い(あるいは、関係入力をしない)場合になります。このため、あまり使われているのを見たことはありません。

一方、この機能は、IPtalk を使って発言者が自分で入力する場合、つまり、チャットで会議をする場合は、発言文の先頭に名前が自動的に入るのでとても役に立ちます。(IPtalk でチャットをする時は、必ずこの機能を使います。)

「色指定」は、発言者ごとに色を変えるために後から追加した機能です。男性と女性の話者がいた時に、カラオケの字幕のように、発言を青とピンクで表示することができます。

「行が継続する時は入れない」は、即時性を改善するために、1 発言を小分けにして表示に流す「空行のみ改行」の時に、**Enter** するたびに発言者名が入らないようにします。

「ESC で消した時もある」は、入力がダブった時にも、発言者名を入れる指定です。ESC で入力部を消すことが、そうそうあるとは思えないので、活用のチャンスは少ないかもしれません。

以上のような機能ですが、「F キーメモで充分なんじゃない？」と言われれば、まったくその通りです。F キーを押す 1 アクションを省略する機能とも言えます。

「色指定」で入力者ごとに色を変えておくと、養成講座などの関係入力の練習の時に、指導者が表示を見て、誰が入力した文が一目で分かります。

【機能説明】

< 「色指定」 枠 >

色指定枠の UpDown で色番号を指定すると、入力部で **Enter** した時に「表示 4」ページの色番号が自動的に入力部の先頭に挿入される。文字の色指定を有効にするためには、「表示 1」ページの「ルビ・文字色・行内画を表示する」の「文字色・行内画を表示する」チェックを入れてください。

< 「発言者名」 枠 >

入力部で **Enter** した時に「発言者名」枠の文が入力部の先頭に挿入される。

<「行が継続する時は入れない」チェック>

チェックを入れると次のように動作する。

- ・交互表示の「空行のみ改行」なしの場合

入力部が空になると発言者名を入れる。

- ・交互表示の「空行のみ改行」ありの場合

空行を送った場合のみ、「発言者名」枠の文を入れる。パートナーが空行を送った場合は、自分の入力部が空であっても発言者名は入らない。

- ・平行表示（必ず「空行のみ改行」となる）

空行を送って新規行から表示が始まる場合のみ、発言者名を入れる。

<「ESC した時もある」チェック>

チェックを入れると ESC で入力部を空白にした後に「発言者名」枠の文を入れる。

【使用方法】

<大勢が同時に発言する会議の入力に使う例>

会議参加者一人を一人の入力者が担当します。

「平行表示」を指定し、「発言者名」に自分が担当する参加者の名前を「栗田/」のように入れます。

「行が継続する時は入れない」のチェックを入れます。

議長は赤などと「色指定」もしておくとうり易いと思います。

「入力 2」ページの「句読点で流す」や「『。』で空行を流す」も指定すると良いと思います。

自分が担当する参加者の発言を入力すると、行頭に自動的に発言者名が入り、文字の色が変わります。

<入力者ごとに色を変える方法>

- ・平行表示の時、入力者ごとに色を変える。

「色指定」で「1」などの色を指定する。

「行が継続する時は入れない」のチェックを入れる。

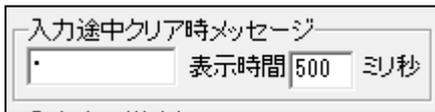
- ・交互表示(通常表示)の時、入力者ごとに色を変える

「色指定」で「1」などの色を指定する。

「行が継続する時は入れない」のチェックを外す。

空行を流す時は、ESC キーで入力部を消すか、F12 キーを押すか、「『。』で自動改行」を使います。

【入力中クリア時メッセージ】



【概要】

同時に同じ文の入力をしてしまった時、モニター部から入力文の表示が消えたのが、「改行して送信した」のか「クリアしたのか」の判断に迷うことがあります。クリア時は、モニター部にそれと分かるメッセージを表示することができます。

【機能説明】

1) メッセージの枠

クリアした時にモニター部に表示するメッセージを入力します。デフォルトとは「.」（ピリオド）です。

2) 「表示時間」の枠

クリアした時に、モニター部にメッセージを表示する時間をミリ秒で指定します。

【使い方】

このクリアメッセージが有効なのは、パートナーと同じ文章を入力開始したことに気づいた時に、モニター部が消えたのが、パートナーが「表示に流すを強行した」のか、それとも「入力部を消して譲った」のかを判断するためです。

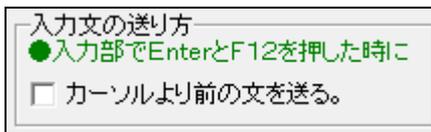
<余談>

この機能は、IPTalk を作って最初に入力者から出てた要望でした。その当時は、モニター部という機能自体が珍しくて、入力者とクリアした時のメッセージをあれこれ議論したものでした。「.」に落ち着いたのは、入力中に「目障りではなく」、かつ、「見逃すことが無い」という理由でした。

しかし、その後、同様の機能を 8 人モニターで「\$改行\$」「\$消去\$」と「見逃すことは無い」が「目障り」と思われるメッセージにしても、特に意見は出ませんでした。たぶん、この手の機能は、「見逃す事が無い」ということの方が優先度が高いのだらうと思います。「目障り」というのは慣れでカバーできると思われれます。このような理由で、もし変更するのなら「見逃さない」メッセージに変更することをお勧めします。また、もし、表示したくないのなら、空白を入れてください。

同じ話を 2 人が同時に入力し始めて、重複していることに同時に気づき、同時に ESC で 2 人とも消してしまうという事を、時々見ることがあります。そのような場合は、残念ですが、この機能は役に立ちません。同時に入力を開始した時は、どちらが優先するかを事前に決めておくのが良いと思います。

【入力文の送り方】



【概要】

前ロールを1文字ずつ流したり、入力した文を2つに分けて流すことができます。

【機能】

1) 「カーソルより前を送る」のチェック

チェックを入れると、「入力部」「サブ入力ウィンド」「原稿前ロール」で以下のような動作をします。

1) 入力部、サブ入力ウィンドでの動作

EnterキーやF12キーを押した時、カーソルより前の部分を送るようになります。入力部の行頭でEnterキーやF12キーを押すと、空行を送ります。この様にすると、Undoした文を別の行に表示する事ができます。

2) 原稿前ロールの中央部での動作

Enterキーを押した時に、カーソルより前の部分を送り、行を進めません。中央部には、カーソルより後の文が残ります。全ての文を送ると、次の行に進みます。行が進んだ時は、カーソルは自動的に次の行の文頭に移動します。前ロールページの中央部の行頭でEnterキーを押すと空行を送ります。前ロールページの中央部でF12を押した場合は、カーソル位置によらず空行を送ります。

この時、原稿前ロールの「Enterで自動に進める桁数」枠に桁数を入れるおくと、原稿前ロールの中央部で、まだ文が残っている時は、カーソルを指定した文字数進めます。進めたく無い時は、「0」を指定します。行末に進めたい時は、「1000」などと充分大きな文字数を指定します。指定する文字数は、全角相当です。

<ヒント> 「テンプレート前ロール」での「カーソルより前を送る」チェック

「テンプレート前ロールウィンド」では、「他2」ページの「カーソルの送り方」に「カーソルより前を送る」チェックや「進める桁数」枠があります。

【使用方法】

<「原稿前ロール」で前ロールを1文字ずつ表示する方法>

- 1) 表示機は、「空行のみ改行」を指定します。
- 2) 前ロールを流す方は、「カーソルより前の文を送る」のチェックを入れます。
- 3) 自動で進める文字数は、「1」を指定します。
- 4) エンターするたびに、1文字ずつ（タイプライターで打っているように）表示します。

<「原稿前ロール」で「空行のみ改行」の表示の時、普通に作った前ロールを改行を意識しないで流す方法>

- 1) 表示機は、「空行のみ改行」を指定します。
- 2) 前ロールを流す方は、「カーソルより前の文を送る」のチェックを入れます。
- 3) 自動で進める文字数は、「1000」などと充分大きな文字数にします。
- 4) 前ロールは、「表示を改行するための空行は入れず」に普通に作ります。
- 5) エンターで1行流すと、次の行頭にカーソルが来るので、そのままエンターし、表示を改行します。
- 6) すると、カーソルは行末に自動で動きます。そのままエンターし前ロールを流します。

<入力部、サブ入力 W での使い方>

入力部の文を途中で改行して表示に流したい時があります。そのような時に、チェックを入れておくと、文を分けて表示に流すことができます。

<ヒント>

入力部の文を途中で改行を入れて表示に流すには、他に、以下の方法があります。

- 1) **Ctrl+Enter** して、入力部内で改行した文を表示に流す。
- 2) 「入力 2」の「。で改行する」チェックを入れて、入力部の文の途中で「。」を入れる。

<余談>

この機能を最初に作ったのは、入力部の文を 2 回に分けて表示に流したいという入力者の要望でした。

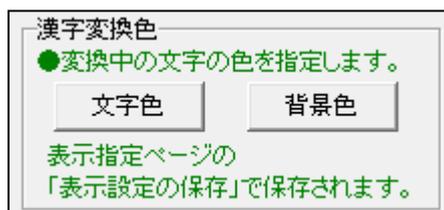
しかし、この機能は、分けて表示に流す時に、入力している文末からカーソルを前の方に移動する必要があるもので、あまり使われなかったように思います。そこで考えられたのが、「サブ入力ウィンド」です。分けて表示に流したい文は、下の入力部に入力するという方法です。

その当時、2 つに分割して流す必要性として、「文の前半を流した後に、パートナーが入力を表示に流すのを待ち、それから後半の文を流したい」という要件があったように思うのですが、今思うと、これは、2 人入力では有り得ない状況です。要望を出した人は、3 人連係入力をしていたのかもしれませんが。(この辺りは、記憶が定かではありません。誰か覚えていたら教えてください。)

通常の 2 人連係入力であれば、パートナーが入力を表示に流した後に、自分が入れている文を途中で改行を入れて表示に流したいという要望になります。この要望であれば、一番、使い易いのは、**Ctrl+Enter** で、入力部内で改行する方法と思います。

このような要望の時に、「サブ入力ウィンド」を使う場合は、パートナーのモニター部には、カーソルのある枠の文しか表示されないという欠点があります。パートナーが文末を合わせるべき、あなたの文頭が表示されないので連係が取りにくいと思われます。この点、「入力部内改行」は、文頭がモニター部に表示されます。

【漢字変換色】



【概要】

漢字変換中の文字色と背景色を指定できます。

入力部の背景を暗い色にした場合に、変換中の文字が見えにくい場合に指定します。

【機能説明】

1) 「文字色」ボタン

変換中の文字の色を指定します。

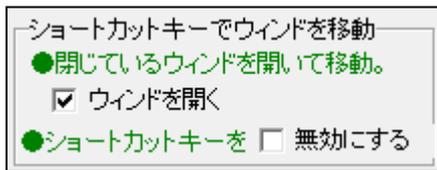
2) 「背景色」ボタン

変換中の背景色を指定します。

【使い方】

入力部の背景を暗い色にした場合に、変換中の文字が見えにくい場合に指定します。

【ショートカットキーでウィンドを移動】



【概要】

チェックを入れると、ショートカットキーを押すと開いていないウィンドを開いてフォーカスを移動する。チェックが入っていないと、開いているウィンドのみフォーカスを移動する。IPtalk のショートカットキーを使いたくない時は、無効にすることができる。

【機能】

1) 「ショートカットキーでウィンドを移動」チェックを入れると以下のショートカットキーでウィンドが開き、フォーカスをそのウィンドに移動する。

ショートカットキーは、それぞれのウィンドの一番上の帯（キャプション部）に表示されています。

メインウィンド	Ctrl+d (display)
サブ入力ウィンド 設定送信ウィンド	Ctrl+i (input)
Fキーメモ	Ctrl+f (f-key)
連絡ウィンド	Ctrl+r (renraku)
カラオケ風色変わり 文字カラオケ	Ctrl+k (karaoke)
確認修正パレット	Ctrl+p (palette)
原稿前ロール	Ctrl+m (mae_roll)
テンプレート前ロール	Ctrl+n (new_mae_roll)
8人モニター	Ctrl+8 (8nin)
スライド前ロール	Ctrl+L (sLide)
お知らせ(テロップ)	Ctrl+o (oshirase)
インターネット	Ctrl+1 (iにしたかったのだが、使っていたので)
ログビューアー、PC テイクノート	Ctrl+b (viewer の「び」で b)
スライド前ロール	Ctrl+s (slide)
定形スライド前ロール	Ctrl + t (teikei)
定形スライドフォーマット指定	Ctrl + u (定形の t の次で u)
スライドエディター	Ctrl + e (editor)
FSG ウィンド (DLL)	Ctrl + o (意味なし)

ショートカットの無いウィンドもあります。

2) 「無効にする」のチェックを入れると「Ctrl+d」などのショートカットキーが動作しなくなる。

【使い方】

いろいろな使い方があると思いますが、次のような時に便利だと思います。

- 1) 「メイン」ウィンドから「サブ入力」ウィンドや「テンプレート前ロール」ウィンドにフォーカスを移動する時に、マウスを使わないので、キーボードから手を離さないで済む。
- 2)開いていないウィンドを開く時。例えば、「テンプレート前ロール」ウィンドを開く時に、「補 1W」ページを開いてボタンを押すより、「Ctrl + n」とすれば一発で出て来る。
- 3)他のウィンドの下に隠れてしまったウィンドを上に出すことができる。

<余談>

「ショートカットキーでウィンドを移動」は、最初は「ショートカットキーでフォーカスを移動」だった。「フォーカスを移動」というのが分かり難いということだったので、「フォーカスを移動する」ことを普通はどう表現しているか聞いてみたところ「ウィンドを移動する」ということだったので、「ショートカットキーでウィンドを移動」にした。しかし、「ウィンドを移動」という表現は、「ウィンドの位置を移動する」と誤解を招いて、逆に分かり難くなったという気もしている。

ショートカットキーを自由に指定できるようにして欲しいという要望が、当初から出ているのだが、手がついていない。

【F8 キー】



【概要】

入力している途中で、それまでの入力をカッコ（「 」）でくりたい場合があります。チェックを入れると、F8 キー、または s h i f t + F 8 キーを押すと、それぞれ指定したカッコで入力部の文字がくくられます。

【機能】

1) 「くくる」のチェック

チェックを入れると、F8 キーが「くくる」の機能になります。

「F キーメモ」の F 8 の部分は、「指定のカッコでくくる」という表示に変わります。

2) 「F8」の枠

F8 キーを押した時にくくる文字列を指定します。

3) 「Shift+F8」の枠

S h i f t + F 8 キーを押したときにくくる文字列を指定します。

<ヒント>

- 1) くくる範囲は、カーソルの位置に関わらず、入力部の全体です。
- 2) くくる文字は、1文字だけではなく、文でも可能です。

【使い方】

・例えば『「今日は良い天気です」と彼は行った』という発言があった時に、入力が発言に追従していた場合は、入力部に「今日は良い天気です」と入力してしまいます。その後の「と彼は言った」という発言を聞いて、初めてカッコでくくる必要がある事が分かります。そのような時は、文頭に戻って『「』を入力する必要がありますが、F8 キーを使うと一発でカッコでくくることができます。

・歌の歌詞を「♪」でくくります。

<余談>

カッコ、♪以外の使い方は、思いつかないのですが、カッコにもいろいろな種類があるので、枠に入力できるようにしてあります。

【入力技能判定】

入力技能判定

●入力部でのキー入力技能を判定します
サブ入力ウィンドなどは対象外です。

入力技能判定パレット 1人入力

結果出力に解説を付ける

表示・入力	選択	補W1	補W2	パートナ	表示1	表示2	表示3	表示4	訂正	入力1	入力2	保存	説明
計測開始	表示文字数	BackSpaceの数	実入力速度(字/分)	表示間隔(秒)									
試験日	入力(Enter)の数	Undoの数	表示速度(字/分)	1入力文字数									
開始時刻	自動Enterの数	Undo文字数	入力速度(字/分)	変換効率(%)									
終了時刻	入力(Enter)文字数	ESCの数	入力分担率(%)	休止時間率(%)									
試験時間	自動Enter文字数	ESC文字数	打鍵効率(字/打%)	判定									
入力秒数	キーストローク数	受信Undo回数	Undo訂正率(%)										
	変換キーの数	受信Undo文字数	入力部内訂正率(%)										
	変換の回数												

【概要】

入力速度やミスタッチの数など測定することができます。

1人入力と2人連係入力を計測することができます。

【機能】

「入力技能判定パレット」のチェックを入れると「表示・入力」ページのスムーズ画面に「入力技能判定パレット」が表示される。

「入力技能判定パレット」の「測定開始」ボタンを押すと入力部の入力記録を開始し、フォーカスが入力部に移動する。この時、「入力技能判定パレット」の背景が黄色くなる。

「測定終了」のボタンを押すと、背景化が灰色に戻り、入力記録を元に入力技能を計算し、結果を表示部に表示する。

入力技能の計算方法や判定基準は、表示部に出力される解説付きの結果を参照してください。

「一人入力」のチェックを入れると、一人入力として計算し、外すと「二人連係入力」として計算する。

「結果出力に解説を付ける」のチェックを入れると、「測定終了」ボタンを押した時に表示部に出力する結果に、判定基準など追記する。

<ヒント>

判定結果の出力は、表示部のフォントを12ポイントくらいにして「ワープロ画面」にすると読み易くなります。

<注意>

開始時刻、終了時刻は、秒未満を切り捨てて表示している。

経過時間は、ミリ秒単位の開始時刻、終了時刻で計算し、秒未満を切り捨てて表示している。

表示文字数は、2バイトを1文字として計算している。改行も1文字として計算している。

【使い方】

- ・例題の音声を流して入力し練習します。
- ・現場で入力する時に、入力技能判定を動かしておいて、ミスタッチや入力速度のデータを計測します。

<余談>

・この機能は、全要研でパソコン要約筆記の技能検定を検討していると知り追加した機能です。他にも、似たような機能を持つソフトも出ているのですが、結局、このように入力文とは関係なく単純に入力速度などで「文字通訳の技能」を評価するの無理があって使われませんでした。

・タイピングの練習には、入力の分析機能が充実しているフリーソフトのタイプウェルがお勧めです。

<http://www.twfan.com/>

・また、関係入力のテキストは、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)から無料で配布されている「やってみよう！関係入力」がお勧めです。ソフトがパートナーをしてくれて関係入力の練習ができる「バーチャルパートナー」というソフトもついています。

<http://www.pepnet-j.com/>

【8人モニターで連絡する】

8人モニターで連絡する

● 連絡や入力補助を8人モニターに表示する時、誤って表示に流すことを防止する

行頭が下の文の時は表示に流さない。

★

【概要】

入力部に入れた文を8人モニターに表示することで連絡を取る場合があります。そのような時に、**Enter**して連絡文を誤って表示に流すことを防止できます。入力部とサブ入力ウィンドの入力部で有効です。

【機能】

「行頭が下の文の時は表示に流さない」チェックを入れると、下の枠に入力した文が行頭の時は、**Enter**しても表示に流さない。

<ヒント>

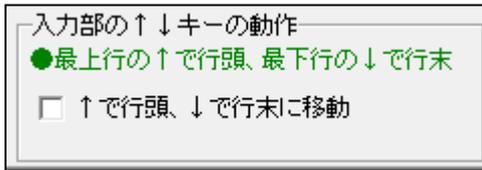
枠の中は、1文字でなくても構いません。Fキーメモに登録しておくの良いと思います。

【使い方】

この機能は、前提として、8人モニターを使って入力補助などを行っている必要があります。枠に入れる文字列をFキーメモに登録しておくの良いと思います。以下のような使い方が考えられます。

・数字が続いた時に、入力者が聞き溜めできない数字を8人モニターに表示して入力補助する時に、文頭に「★」など、枠に入れた文を入れます。このようにすれば、間違えて**Enter**しても表示には上がりません。

【入力部の↑↓キーの動作】



【概要】

入力部で文頭や文末に一気に移動したいことがあります。チェックを入れると↑↓キーで一気に移動します。

【機能】

「↑で行頭、↓行末に移動」チェックを入れると入力部とサブ入力部で、最上行で↑すると行頭に、最下行で↓すると行末にカーソルが移動する。

入力が入力部の1行に納まっていれば、↑で行頭、↓で行末に移動する。

【使い方】

文頭に移動したい時は、↑キーを押します。

文末に移動したい時は、↓キーを押します。

<余談>

エクセルで **Home** キーを押すとセル内の行頭にカーソルが移動します。

使っている人はいないでしょうが、**Emacs** というエディターでは、**Ctrl+a** で行頭です。

WindowsXP では、**Ctrl+→**で「次の単語の先頭」、**Ctrl+←**で「前の単語の先頭」のハズですが、**IPtalk** の入力部の動作は、ちょっと微妙です。